

20年度発掘調査遺跡の紹介

いわのほら 岩ノ原遺跡Ⅱ

(上越市大字向橋字岩ノ原155-105ほか)

岩ノ原遺跡は、高田平野西縁の丘陵裾(灰塚面)、青田川と儀明川の間^{きゅうみづそ はいづかめん あおた ぎみょう}に立地し、標高は約22mです。北陸新幹線の建設に伴い、9月から11月にかけて1,250m²を^{きぶくわ}発掘調査しました。

奈良時代から室町時代の遺跡で、遺構は^{たてあな}竪穴建物3棟、^{ほったて}掘立柱建物39棟、井戸20基、土坑13基、ピット多数を^{はじき すえき かいゆうとうき すずやき としし せんか}検出しました。遺物は土師器や須恵器、灰釉陶器、珠洲焼、砥石、銭貨が出土しています。

重要な調査成果として、平成18年度調査時に^{ちゅうけつ}検出した同時期の掘立柱建物群と長軸方向・規模・柱穴形状の類似した建物群を確認できました。このことからこれらの遺構群は東大寺の^{しやう}荘園「石井荘」の^{いしゐのしやう しやうどころ}荘所に含まれると考えられます。

また、これらの掘立柱建物群よりも古いと考えられる^{ぼく}竪穴建物(SI1312)から、「荘」と^{しよ}墨書された須恵器高台杯が出土しました。この墨書土器は、8世紀中葉頃のものと考えられ、「石井荘」が成立した天平勝宝5(753)年に^{てんひやうしやうぼう}ほぼ近い時期のものとして注目されます。

(株)ノガミ 岡本範之



全景(南東から)



「荘」の墨書土器



竪穴建物(SI1312)と遺物出土状況

しもしん ぼ たか だ
下新保高田遺跡
 (村上市下新保字高田1960-2ほか)

下新保高田遺跡は、^{みおもて}三面川左岸の^{ちゅうせきびこうち}沖積微高地に位置し、標高は約17mです。日本海沿岸東北自動車道建設に伴い、4月から12月まで5,280㎡を対象に発掘調査を実施しました。遺跡は古墳時代前期・中世の集落であることが判明しました。ここでは、古墳時代前期の遺構・遺物を中心に報告します。

古墳時代の遺構は、^{たてあなじゆうきょ}竪穴住居22軒、^{ほったてばしら}掘立柱建物2棟、^{えんけいしゆうこう}円形周溝遺構1基、^{どこう}土坑約110基、^{しょうど}焼土14か所、^{みぞ}溝18条などが見つかりました。これらの遺構は標高のやや高い調査区北側に集中しており、遺構の分布や周辺の地形から、遺跡は東西方向に広がる規模の大きな集落と推測されます。出土した遺物は、土師器、石器・石製品などです。土師器の中には、近畿地方の影響がうかがえるものもあり、当時の地域間交流を知る上で貴重な資料です。また、古墳時代の遺跡では数少ない^{すりいし}磨石や^{たたきし}敲石などの^{れき}礫石器が多量に出土しました。生活の様子的一端を表すものと考えられます。

遺跡で見つかった一般的な竪穴住居は1辺5m前後の方形ですが、1辺8mを超える(長軸約8.8m、短軸約8.5m、深さ約0.8m)大型の竪穴住居が1軒(SI1327)見つかりました。床面積は約75㎡で、県内の古墳時代前期の竪穴住居としては最大級かつ最深です。床は^{さしつど}砂質土が敷かれ、^{かた}硬く^{しま}締まっています。炉は床を浅く掘り^{くぼ}窪めた^{じしやうろ}地床炉で、住居のほぼ中央に位置します。^{しちゆうけつ}主柱穴は4本でそれぞれに^{しちゆうけつ}支柱穴を伴い、共に深さは床面から約1.1mと深いものです。そのほか、東壁に^{ちよぞうけつ}貯蔵穴と考えられる土坑が見つかりました。遺物はそれほど多くはありませんが、床面から^{かんけい}ほぼ^{かめ}完形の^{きだい}甕や器台が出土しました。

大型竪穴住居の床面積はほかの住居に比べて約3倍と群を抜いて大きく、集落内で稀少な存在であることから一般的な住居とは考えにくく、「有力者の住まい」や「共同の施設」などといった使われ方も考える必要があります。
 (加藤建設(株) 青木 学)



調査区北側(上空:南東から)



大型竪穴住居(SI1327:南から)



近畿地方の影響がうかがえる土師器甕



磨石・敲石などの礫石器

けん の さわ 剣野沢遺跡

(柏崎市大字剣野字鎌田ほか)

剣野沢遺跡は、鵜川左岸の剣野丘陵を挟んだ、標高9m前後の谷間沖積地に位置します。一般国道8号柏崎バイパス建設に伴い、平面積3,030㎡を対象に平成20年7月から平成21年1月まで調査を行いました。周囲は宅地の盛土で覆われ、当時の景観を望むことはできませんが、小規模な河岸段丘に立地していた様子をうかがうことができます。上層からは中世の集落、下層からは縄文時代の集落と河川(谷川)が見つかりました。

上層は鎌倉時代(13世紀頃)を主体とする集落で、溝で居住域と生産域に区画されています。居住域は調査区を南北に貫く溝の南東側に位置し、掘立柱建物・井戸・土坑などが集中しています。一方、溝の西側の一段低い範囲では、浅く広い掘り込みが何か所か見つかった程度でした。当時の耕作遺構の可能性がります。遺物は居住域に集中することなくほぼ全域から出土し、珠洲焼や土師器皿を中心に、青磁・白磁なども少量あります。木製品も多く、鉢・合子・塔婆類・将棋駒など類例の少ないものも出土しています。

下層の遺物は縄文時代後期後半を中心とし、中期～晩期の土器・石器・土製品などが出土しました。また調査区西側には河川(谷川)が蛇行しており、その堆積した砂礫内に多量の遺物が含まれていました。上流からの流れ込みと、近接した場所からの廃棄が重なった結果と考えています。遺構は全体的に希薄ですが、掘立柱建物や土坑、埋設土器などが河川に隣接する範囲で確認できました。柱根(径約40cm)が残っていた建物もあり、柱を安定させる工夫か、柱根の下には径5cm前後の礫が敷きつめられていました。遺跡の東側の丘陵上には柏崎市指定史跡の「剣野山縄文遺跡群」があり、関連を考える必要があります。(石川智紀)



近景(南から)



全景(南から)



鎌倉時代の遺構集中区(南から)



縄文時代の掘立柱建物(南西から)

香積寺沢遺跡

(柏崎市大字剣野字香積寺沢ほか)

香積寺沢遺跡は、鵜川左岸の複雑に開析された谷に位置し、標高14m前後に立地します。一般国道8号柏崎バイパス建設に伴い、630㎡を対象に6月から8月中旬まで調査を行いました。

北西から南東に向かって傾斜する緩斜面地で、丘陵裾に近い高所で柱穴や土坑が見つかりました。大半が中世の遺構と考えています。建物の規模などは不明ですが、居住域であった可能性があります。これに対して低地となる南側には木炭窯が1基ありましたが、基本的には川が存在していたようです。木炭窯には木が多く残っていましたが、整然と並べたような痕跡は認められませんでした。

遺物は中世(13~15世紀頃)のものが大半を占め、中世土師器・珠洲焼・越前焼・青磁などの土器・陶磁器類のほか、硯などの石製品、木製品、銭貨などが出土しています。ほかには縄文時代後・晩期の土器・石器が、南側の埋没した谷付近を中心に出土しました。

今回の調査範囲では、地名の「香積寺」が示すような寺院の存在を、遺構・遺物から確認することはできませんでしたが、狭い谷地に立地する遺跡の性格について、今後考えていきたいと思えます。

(石川智紀)



全景(東から)



木炭窯(東から)

荒町南新田遺跡

(上越市大字荒町字南新田286-1ほか)

荒町南新田遺跡は、青田川右岸の自然堤防上に立地し、標高は17.5~18mです。北陸新幹線の建設に伴い4月から11月にかけて12,021㎡を発掘調査しました。調査の結果、弥生時代から中世の集落遺跡であることがわかりました。特に調査区西側では、ほぼ南北方向に流れる河川跡を検出し、その右岸で弥生・古墳時代の竪穴住居や円形周溝遺構等の遺構が多く見つかりました。今回はそれらを中心に報告します。

竪穴住居は13軒確認しました。その中にはカマドをもつものが見られます。カマドは東側の壁に作られ、住居の外側には煙を出すための横穴(煙道)が伸びています。カマドの周辺からは煮炊きや盛り付けに使われた土器が多く出土し、その当時の人々の生活ぶりがかがわれます。

円形周溝遺構は幅約80cm、深さ約60cmの溝が円形にめぐり、直径約11.5mとなっています。溝の中からは古墳時代の土器が出土しています。溝の内側で土坑・ピット等は検出できず、詳しい性格はわかりませんが、周辺の遺跡の類例から建物の一部であった可能性も考えられます。

(株ノガミ 金内 元)



カマドとその周辺から出土した土器



円形周溝遺構

ひめごぜ 姫御前遺跡

(糸魚川市東寺町1丁目1060-1ほか)

姫御前遺跡は、海岸から400m内陸の沖積地に立地します。北陸新幹線の建設に伴い2年間（平成18・20年度）で延べ6,800㎡を発掘調査した結果、上層から室町時代（15～16世紀）、下層から古墳時代前期（4世紀）の遺跡を検出しました。上層では、建物などの遺構がほとんど検出されませんでした。木製の箸や棒が地面に立てられており、何らかの祭祀が行われた場であったと考えられます。下層では、平地建物4棟、掘立柱建物2棟が検出されたことから、周辺に集落が広がっていたと考えられます。

下層で検出した4棟の平地建物のうち、1棟（SI216）の残存状況は特に良好で、建物のあり方を知る上で貴重な事例となりました。この建物には、細く浅い溝（幅・深さ5cmほど）が1辺7mほどの隅丸方形にめぐりますが、板壁が建てられた跡と考えられます。7mの規模をもつ建物は、古墳時代前期としては県内最大クラスで、有力者の存在をうかがい知ることができます。上屋を支えた柱は、4本が1辺3.5mほどの正方形に配置されることがわかりました。柱の根元は4本とも腐らずに残っており、南側2本は細く根入れが浅く、北側2本は太く根入れが深いことが明らかになりました。このような柱の相違は、日本海から吹きつける北西の季節風への対策と見られ、柱の規模や構造を知る手掛かりとなります。柱の材質については、今後詳細に調べますが、いずれもスギ材のようです。花粉分析を行ったところ、当時、周辺地域にはスギ林が広く存在したことが明らかになっており、近隣で容易に入手できる木材が利用されたと考えられます。また、建物の中央には炉、東壁近くには間仕切りと土坑が検出され、空間利用のあり方を知る手掛かりも得られました。住居の外周には、楕円形の土坑が断続的にめぐることからも明らかになりました。住居の内と外の境を意味するとともに、低地に立地することから床面を乾燥させるための付属施設であったと考えられます。

このように、姫御前遺跡で発見された建物跡は、古墳時代の建物の実態を知る上で多くの情報をもっています。今後の整理作業をとおして、建物の構造について詳しく検討していきたいと考えています。（加藤 学）



近景(東から)



良好な状態で検出された平地式建物(SI216:南から)



SI216北西隅の柱根(直径24cm,根入れ74cm)



平地式建物群(東から)

山岸遺跡

(糸魚川市大字田伏字山キシほか)

山岸遺跡は、新潟県南西部を流れる早川の左岸、日本海から約400m内陸、丘陵に挟まれた谷の中に立地しており、標高は10～15mです。北陸新幹線と一般国道8号糸魚川東バイパス建設に伴い、平成18年度に発掘調査を開始しました。これまでの調査で縄文時代から安土・桃山時代にかけて断続的に営まれた遺跡であり、主体は鎌倉時代(13世紀～14世紀前半)であることが明らかになり、鎌倉時代の庭園を伴う大型の掘立柱建物が検出されたことや傘紋入り銅製品の出土などから、当地(沼川郷)の地頭として鎌倉時代の文書に現れる名越氏と関連した遺跡と推定されています(『埋文にいがた』61)。また、遺跡に隣接して鎌倉時代末から南北朝時代(14世紀)に造立した五輪塔も存在します(『埋文にいがた』63)。

発掘調査3年目の平成20年度は、4月から12月にかけて5,400㎡を調査しました。遺跡は3層に大別でき、鎌倉時代、平安時代から古墳時代後期、縄文時代前期の遺構・遺物が層位ごとに検出されました。

鎌倉時代の遺構からは、地表下30～40cmの土層から掘立柱建物・土坑・溝などを検出しました。掘立柱建物は梁行5間(10～11m)、桁行9間(19～20m)、平面積約200㎡にもなる大型のものがあり、遺跡内に有力者が存在したことを想定できます。遺物は、青磁・白磁・珠洲焼・土師器皿・柱根・礎盤(板)などが出土しました。

鎌倉時代の土層の直下からは平安時代(9～10世紀)・古墳時代後期(6世紀)の溝・水田跡などを検出し、土師器・須恵器が出土しています。

古墳時代から平安時代の土層の下位0.1～1mからは、縄文時代前期を中心とする遺物が出土しました。遺構は土坑が1基検出されただけでしたが、遺物は土器・石器(磨石・石錘・貝殻状剥片石器・磨製石斧・磨製石斧未製品・石核・剥片など)が出土しています。

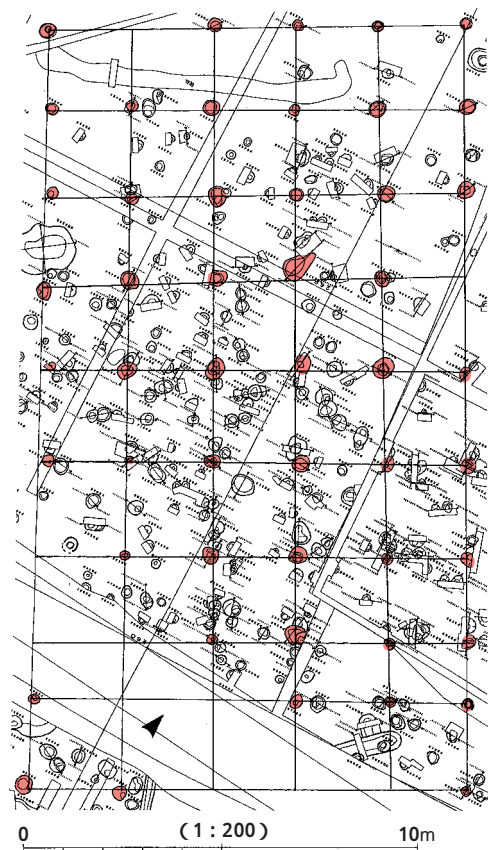
(春日真実)



鎌倉時代の遺構(東から)



縄文土器出土状況(西から)



大型掘立柱建物

保存処理室から

せん か
銭貨の調査と保存処理

日本の貨幣経済のはじまり わが国で「富本銭」や「和銅開珎」をはじめとする銭貨が初めて鑄造されたのは、7世紀後半から8世紀初めのことです。その後250年の間に12種類の銭（皇朝十二銭）が造られましたが、銭貨の使用は畿内の役人や社寺に限られ、民衆の間では稲・布などの物々交換が一般的であったため、平安時代中期には貨幣の鑄造が中止されました。しかし、平安時代末期頃になると、地方の国府においても市などの商業活動が活発になったことから、貨幣の需要が高まり、平氏による中国「宋」との貿易によって大量の「宋銭」を輸入するようになりました。鎌倉時代には寺社門前、豪族の館の周辺、港などの交通の要地にも市が立ち、貨幣経済は広く一般民衆にまで浸透していきました。

銭貨の調査 平成15年に発掘調査を行った柏崎市東原町遺跡では、鎌倉時代の集落の一角から「埋納銭」が出土しました。スギ板で蓋をした珠洲焼の壺の中に大量の銭貨を納めたもので、当時の人々が戦の資金に貯めたものであるとか、へそくりであったなどの説がありますが、よくわかりません。埋納銭は銭の種類や枚数などを調べるため、壺に入ったままの状態ですべて保存処理室へ運びこみ、詳しい調査を行いました。

銭貨は藁などの植物繊維の紐（縶紐）に通された「縶」の状態になっており、壺の底から口まで33本の縶がとぐろを巻くように8段にわたって納められ、最上部にバラ銭が置かれていたことがわかりました。縶には銭貨97枚毎に結び目があり、この遺跡の当時の人々は97枚をひとつの単位として意識していたと考えられます。さびで銭同士が固着していたため、メスと金槌で1枚ずつ剥離したところ、銭貨の総数は10,674枚にのぼりました。

また、銭貨に付着した不要なさびを竹串やメス、グラインダーなどで取り除き、X線透過撮影により銭銘を確認したところ、銭貨の種類は71種類あり、古いものは五銖（後漢：初鑄西暦24年）、新しいものには中国の至大通寶（元：初鑄西暦1310年）や、ベトナムの紹豊元寶（陳：初鑄西暦1341年）がありました。銭貨や珠洲焼の壺の製作年代から、埋納銭は14世紀中頃から後半に埋められたものと考えられます。

銭貨の保存処理 銭貨の保存処理は、先ずエタノールで表面の泥汚れを洗浄した後、実体顕微鏡下で地金を傷つけないよう注意しながら、表面の不要なさびを竹串やメスなどで取り除きます。さびの粉をエタノールで洗浄した後、腐食の進行を抑えるため、ベンゾトリアゾール（B T A）のメタノール溶液に漬け、銅とB T Aの化合物を表面に形成させます。最後にパラロイドB72というアクリル樹脂のアセトン溶液を染み込ませて、銭貨の強化とコーティングを行い、さびの原因となる空気や水などから銭貨を守る処理を施します。割れてしまった銭貨は、エポキシ樹脂という接着剤で接合する場合があります。保存処理が終了した銭貨は、研究資料や歴史学習の教材、展示資料として活用され、私たちに当時の人々の盛んな経済活動や東アジアの貨幣経済について教えてくれます。

（三ツ井朋子）



東原町遺跡出土の埋納銭



壺から縶の状態ですべて銭貨を取り出す



縶（97枚毎に結び目で区切られている）



さびで固着した銭貨を剥離



銭貨表面のさびを実体顕微鏡下で除去

県内の遺跡・遺物64

ちやうじゃ が だいら
長者ヶ平遺跡 (昭和59年国指定)
 (佐渡市金田新田126-2ほか)

長者ヶ平遺跡は、小佐渡西南部小木半島のほぼ中央、標高175mの丘陵上に位置し、面積は約12,000㎡です。遺跡の南側と西側は崖、東側は強清水に続く深い谷となり、遺跡の広がりには舌状に伸びた丘陵平坦部に限定されます。海岸までの最短距離は強清水の港までの約1.4kmで、島の中でもかなり内陸部に位置した遺跡です。

長者ヶ平遺跡は、遺物が拾えることから、かなり以前から注目されていました。最初の調査は昭和41～43(1966～68)年に行われ、多数の遺物が出土しました。その後、昭和55～58(1980～83)年の4年間、「保存計画策定のための資料を得る目的」で調査が進められ、島における縄文時代の生活の実態が判明しました。調査は國學院大学考古学研究室のもと、遺跡全域にわたってのトレンチ調査を実施しました。

検出した遺構は、竪穴住居6軒、配石遺構11基などです。遺物は、縄文土器・土偶などの土製品や石斧などの石器と、大珠未製品などの装身具などです。これらは土器の特徴から縄文時代前期末葉から中期中葉のものと考えられますが、遺跡は継続的に営まれた集落ではなく、何度か断絶したものと考えられます。

遺跡から出土する土器は、離島でありながら多彩な様相を呈しています。これは本州の土器が島に搬入され、島外の地域の影響を受けたことを表しています。具体的には、東北地方からは北部の円筒上層式と南部の大木式の2つの様式がもたらされました。また、前期末葉の十三菩提式と中期中葉の加曽利EⅠ式には関東地方との、中期初頭のいわゆる集合沈線文系の土器群には中部地方との関連がそれぞれうかがえます。北陸地方と関係があるものは、前期末葉の福浦上層式・朝日下層式、中期初頭の新保式、前葉の新崎式、中葉の馬高式、後期初頭の気屋式です。やがて中期後葉になると佐渡島に独自の藤塚式が現われ、本州の越後地方とは異なる島独自の様相を示すようになります。

このようなことから、各地域との関係が非常に緊密なものであったことがうかがわれ、縄文時代の海上交通が予想以上に発達していたことが想定されます。

昭和59(1984)年、国指定史跡として登録され、現在公園として整備されています。また、遺跡から出土した遺物は佐渡考古資料館に展示され、社会教育の一環として役立っています。

(写真提供：佐渡市、佐渡市教育委員会)



長者ヶ平遺跡

小木地区空撮(画面上が北)



公園入口

埋文にいがたNo 66

発行 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
 〒956-0845 新潟市秋葉区金津 93番地1
 TEL (0250) 25-3981
 FAX (0250) 25-3986
 e-mail : niigata@maibun.net
 URL : http://www.maibun.net
 印刷 阿部印刷株式会社